

所 属	農林商工部 情報産業室		
担当(係)名	産学官連携 チーム	内線	3115

(款)7商工費	(項)1商工費	(目)(7)工業立地対策費
(明細書事業名) 工業立地等活動費 産学官連携ロボット研究開発事業		

1 当初予算(要求)額(千円)

388,001

2 当初予算(決定)額(千円)

388,000

(前年度414,000)

【財源内訳】

国庫

68,750

県債

0

一般財源

319,250

3 事業概要

ロボット等の生産拠点づくりと起業化を目指し県が進めている、ロボット技術をキーとした産業振興策「ギフ・ロボット・プロジェクト21」の一環として、テクノプラザを拠点に、産学官連携によるプロジェクト研究を実施します。

4 施策の効果

企業の技術力向上

地域企業との共同研究の推進を通じ、企業の技術力向上が図られます。

地域産業の競争力強化

産学官連携の推進により、地域産業の競争力強化が図られます。

産業の高度化・新たな産業の創出

ロボット等の新しい産業の展開が図られ、産業の高度化・新産業の創出に繋がります。

5 要求の内容

(1)プロジェクト研究費 372,000千円

最先端のロボット技術をキーとしたプロジェクト研究を産学官連携により実施します。

プロジェクト研究体制

産:岐阜県工業会など地域産業界

学:早稲田大学WABOT-HOUSE(ワボットハウス)研究所、地元大学等

官:生産情報技術研究所等

研究期間 平成14～18年度

研究内容 ロボット、ハウス、情報通信ネットワークなど、さまざまな分野の研究を横断的に実施するとともに、地域産業の創出を図ります。

平成15年度は、テクノプラザ内でワボットハウスの建築が始まります。

(2)プロジェクト研究拠点維持・運営費 16,001千円

テクノプラザに設置している早稲田大学WABOT-HOUSE研究所の維持、運営

6 用語の解説

早稲田大学WABOT-HOUSE研究所

県と早稲田大学の事業協力協定(H13.11.16)に基づき、早稲田大学の研究所として、平成13年12月1日、テクノプラザに設置されました。WABOT(ワボット)は、早稲田ロボットの略です。

7 決定内容

プロジェクト研究費については、国制度の活用等、外部資金の導入について引き続き検討する

よう意見を付した。